

事務事業名		体験型観光企画調整事業				評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	3 魅力と活力ある産業づくり				担当組織	担当部	観光スポーツ部	担当課	観光立市推進課
	政策	2 観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり				担当係	施設係	担当課長名	小野 勉	
	施策	1 ひとを集める観光戦略の展開				新規事業・継続事業		新規事業		
	基本事業	3 宿泊、体験型観光の推進				実施計画事業・一般事業		実施計画事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				
						市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
						任意的事業・義務的事業		任意的事業		
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H26年度～ 年度		根拠法令 条例等	なし				
						実施方法		直営		
						事業分類		その他市民に対する事業		
						リーディングプロジェクト		該当なし		
					市長マニフェスト		3-6			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)						
体験型観光を展開している施設管理者が、関連する情報を収集・共有して、施設間の連携を推進するため企画調整会議を開催し、個々のメニューの見直し、磨き上げ、新企画を行う。	体験メニューを持つ「あきやま学寮」「根古屋森林公園」「蓬山ログビレッジ」の3施設の指定管理者と連絡を取り合い、各施設の現状の把握をした。						
	活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
	会議開催回数	回		0	1	1	1

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

体験型観光メニュー	対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
	体験メニュー数	個		28	29	30	31

目的 ③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

体験メニューを魅力ある状態に保つ。	成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
	体験メニュー利用者数	人		5,447	5,600	5,700	5,800

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

国内に居住する人に対して、宿泊施設及び体験メニューの整備により、数多くの人に利用してもらう。	上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
	体験型宿泊施設の宿泊者数	人		11,891	12,000	12,500	13,000
	体験メニュー数	個		33	35	36	37

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	一般財源	千円		0	0	0	0			
	事業費計(A)	千円	0	0	0	0	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	人		2	2	2	2			
のべ業務時間	時間		60	60	60	60				
人件費計(B)	千円	0	236	236	236	236				
トータルコスト(A)+(B)	千円	0	236	236	236	236				

事務事業名	体験型観光企画調整事業	担当部	観光スポーツ部	担当課	観光立市推進課	担当係	施設係
-------	-------------	-----	---------	-----	---------	-----	-----

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	リーディングプロジェクトに該当し、総合計画後期基本計画にも位置づけられ、体験型観光の主要な部分であるメニューの充実を図るため、平成26年度から開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	施設の指定管理者より施設間の連携強化を図るため、定期的に会議等を実施して欲しいとの要望がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 体験メニューを魅力ある状態に保つことで多くの人に利用してもらい、宿泊者の増加につなげることは「宿泊、体験型観光の推進」に結びつく。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
委ねられる・委ねられる可能性がある	理由・改善案 現在は施設指定管理者が各々体験メニューを展開しているが、当面の間、市が連携強化と企画調整に関与しメニューの充実を図っていき、管理者間の組織による自立した活動が行われるようになれば、委ねられる可能性がある。	
③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？		
妥当である	理由・改善案 体験メニューを魅力ある状態に保つことが、本事業の目的であるため妥当である。	
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案 これから会議を繰り返し開催していくうちに、指定管理者間の連携がより強固なものとなり、より良い体験メニューができる可能性がある。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名 体験メニューのある宿泊施設がほかにないため。	
*類似事務事業があれば、名称を記入		
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	削減の余地はない	理由・改善案 市が関与する部分の職員人件費のみのため削減の余地はない。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 受益者は利用者であり、メニューに合わせた利用料金を設定しているため。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	指定管理者間で企画調整のための連携が図られ、自立した活動が行われるようになれば終了することができる。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																						
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			